



報道関係者各位

2010年 9月 13日
株式会社キュー・テック

高品質で違和感のない3D映画を短期間で制作できる

標準化された3D映画制作プロセスを確立

株式会社キュー・テック(本社:東京都港区赤坂 代表取締役:堀 徹、以下キュー・テック)はこれまでの作品実績で培った、2D-3D変換技術のノウハウを集約し、9月18日公開「THE LAST MESSAGE 海猿」の2D-3D変換作業を行いました。120分を超える実写大作では国内初の3D作品の2D-3D変換を通して、高品質で違和感のない3D作品を短期間で制作できる、標準化された3D映画制作プロセスを確立いたしました。

キュー・テックは2008年から3Dシネアドを皮切りに、昨年8月劇場公開「侍戦隊シンケンジャー 銀幕版」、10月劇場公開「アルビン号の深海探検 3D」、今年度1月劇場公開「劇場版 遊戯王」など様々な3D劇場作品に対して2D-3D変換サービスを提供して参りました。「アバター」の公開以来増え続ける、3D映像化の要望に対応すべく、更なる技術開発、ワークフローの改善、人員増強、を図り、このほど「THE LAST MESSAGE 海猿」の2D-3D変換作業を担当致しました。120分を越える邦画実写史上初の大作を3D化するにあたり、様々な3D深度のシミュレーションを行い、長時間視聴に耐えうる3D映像の変換技術を確立致しました。

<目指したのは邪魔しない3D>

2D→3D変換は立体感を強調しすぎると不自然な立体感や映像の破綻が起こりやすく、映像として見づらいものになり易い為、繊細な作業が必要になります。画面に見づらい部分があると、観客はその部分が気になってしまい、監督が意図した部分や俳優の素晴らしい演技にも目が行かなくなり、感情移入していたストーリーから観客を覚めさせてしまう要因になってしまいます。

「THE LAST MESSAGE 海猿」は感動的なストーリーのアクション巨篇です。シリーズ完結編である本作は、海猿ファンにとっても特別な作品となるため、観客の感動を邪魔することなく、3D作品として楽しんでいただける映像作りを目指しました。

現在、ハリウッドにおいても良質な3D映画制作、違和感のない自然な3D表現を実現するには経験を積んだ3Dディレクターが不可欠とされ、人材の不足が指摘されております。弊社は、既に多くの経験を積んだ3Dディレクターを有し、この点も「ザ・ラストメッセージ海猿」の3D化において、弊社が選択された理由となっております。

<新たな技術の導入・ワークフローの改善>

- ・株式会社マーキュリーシステムとの提携技術に加え、VFX、CG技術をフル活用し、「海猿」に最適な技術開発、世界的にも通用する高いクオリティーを実現致しました。
- ・偏光方式のリアルDとアクティブシャッター方式のXPAND、両方式に対応したカラーグレーディング・マスター作成を実現し、立体感のクオリティーアップを図りました。

・3年間の変換技術開発において、高い技術を習得した7人のクリエイターを中心に、独自のトレーニングプログラムで育成した新人スタッフ約30人を加えたチームを編成、世界的にも前例の無い短期間かつ高レベルの変換作業を実現致しました。

* 変換スタッフの育成プログラムが確立できたことで、映画、放送両分野で急速に増大する3D化ニーズに迅速に対応出来る体制が整いました。

<2D→3D変換の新たな効果>

撮影条件によって限定されていたセットの大きさを、2D→3Dによってより深く、より巨大に表現することが出来たため、各撮影シーンにおける監督の演出意図を更に反映することが出来ました。撮影後だからこそ可能な、2D→3D変換の新たな活用方法として今後も効果が期待できます。

キュー・テックの2D→3D技術は、各方面から高い評価を受けています。ハリウッドのメジャースタジオにもサンプル映像を提出し、高い評価を受けました。今後はハリウッドメジャー作品の3D制作にも進出する予定です。又、2D→3D変換のみならず、3D撮影についても体制を整えており、3D映画制作を全面サポートすることが可能です。

Blu-ray Disc向けの3D エンコード、オーサリングも開始し、今後も更なる技術開発を続け、演出面・技術面で世界に通用する、より自然な3D映像を制作致します。

キュー・テックについて:

1981年レーザーディスクの事業化にあたり、パイオニア株式会社が設立したレーザーディスク株式会社の映像編集部門として、映像コンテンツの制作・編集を開始致しました。その後、MBOによって独立、2005年メモリーテックが筆頭株主となり、現在の株主構成は、メモリーテックが81%、バンダイビジュアル株式会社が15%となっています。ハイビジョン映像の編集・オーサリング、デジタル映画・3D映画の制作・編集・オーサリングのリーディング企業です。

本資料に関するお問合せ先

株式会社キュー・テック E-mail: info@qtec.ne.jp